



え・浅妻健司

朝起きは 再建の第一歩

倫

理法人会の「経営者モーニングセミナー」会場には、

朝起きは繁栄の第一歩」という

標語が掲げられています。これは、

倫理運動の創始者である丸山敏雄

が、朝の勉強会を始めるにあたって

昭和二十四年九月二十九日に制定

したものです。当初は「朝起は

再建の第一歩」とされ、やがて倫

理法人会において「再建」の語は

「繁栄」に改められました。

実際に、この朝起きの実践によ

って繁栄をつかんだ経営者の実体

験は数多くあります。

たとえば、飲食店を経営するT

社長は、多額の借金による事業危

機に際し、毎朝早く起きることを

実践。それが倫理経営を取り入れ

る契機となって、借金返済から事

業拡大へとつながりました。

何故、朝起きによって標語に謳

われたような「繁栄」が実現する

のでしょうか。それは経営者にと

って次のような効果が期待できる

からです。

①余裕をもって一日のスタートを

②目が覚めたらサッと起きること
で、直観力や決断力が養成される。

③電話、訪問等に邪魔されること

なく、静かに思索を深められる。

事業上の失敗や苦難を克服した

体験報告の中には、必ず純粋倫理

の観点からの深い反省と、重要な

気づきを見出すことができま

す。そこから始まる自己革新の取

り組みの多くが「朝」の立て直し

を端緒としているのです。

実践ポイントとして、以下の三

点を挙げる事ができるでしょう。

①時間に余裕をもって早く起きる。

②目覚めと共に切れ味鋭く起きる。

③震えるような喜びを抱いている。

そもそも、朝起きは「働き」の

始まりであり、今日一日を生きる

生」のスタートに他なりません。

社長の起きる姿は、社員も、お

客様も知らないでしょう。①②③

のあり様は、自分だけが知り得る

もの。朝の起き方は、作り飾り、

ごまかしの効かない本当の自分の

全てが表われる時といえます。

だからこそ、朝起きの一点を良

くすることで、その好影響がジワ

ジワと家庭や会社に波及し、結果
的に、事業危機からの再起を果た
すことができるのです。

又最初失敗すること、これは尊

い月謝である。喜んで又改めてと

りかかると、いつか大きい成功の

栄冠がかがやく。

失敗の意義を説いた『万人幸福

の葉』第12条の一節は、日本の国

生み神話に淵源し、丸山敏雄はそ

れを『初敗大成』の原理」と名づ

けました。失敗という苦難を尊

い月謝』であると受け止め、喜ん

で又改めて」とりかかると。その出

発点に「朝起き」があります。

さて、先の標語には再建の対象

が記されておりませんが、丸山敏

雄は、「国家再建」の思いを明確に

抱いていました。それと自己の再

建が切り離されていないところに

倫理実践の肝があります。

一人ひとりの人生の立て直しが

日本創生と連なっていると自覚

をもって、ひと朝ひと朝の目覚め

を大切に、働き直し、生き直して

いきたいものです。いつか 大き

い成功の栄冠」が輝くと信じて。